GX series

取扱説明書　Ver 1.0

GX3

GX5

GX7

音響特機株式会社
No. 17002-021101

安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	「必ず守ってください」という強制を表しています。

	「絶対にしないでください」という禁止を表しています。

⚠警告　この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。

必ず実行

本書をすべて読むこと
この製品を設置、使用する前に必ず本書をすべてよく読み、本書の内容にしたがってください。

必ず実行

電源コードは仕様に適合した電源に接続すること
適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。

必ず実行

確実に接地すること (アース)
感電を防止するため、確実にアースに接続してください。

禁止

水分をかけたり湿気にさらさないこと
この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。この製品を直接水がかかる場所、または湿度の高い場所に置かないでください。感電や火災、故障の原因になります。

必ず実行

電源コードや接続ケーブルは安全に配置すること
ケーブルをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、ケーブルが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っかけるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。

禁止

電源コードを濡れた手でさわらないこと
感電の原因になります。

禁止

大音量で使用しないこと
この製品をスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。

必ず実行

異臭や異常を感じたらただちに電源コードを抜き、修理を依頼すること
正常に機能しない、異臭や異音がするなどの場合は、修理をご依頼ください。

必ず実行

電源コードや電源プラグに異常がある場合は使用を中止し、修理を依頼すること
電源コードやプラグの摩耗、接触不良等の場合は本体を使用せず､修理をご依頼ください。

必ず実行

長時間使用しないときや落雷の危険があるときは電源コードを抜くこと
火災や感電、故障の原因になる場合があります。

禁止

本体内部に液体や物を入れないこと
火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。

禁止

製品を分解したり改造しないこと
火災や感電、けが、故障の原因になります。本体の内部にはお客様が操作する部分はありません。

⚠警告　この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。

本体の換気用開口部をふさがないこと
本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと
ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。

他の機器やスピーカーと接続するときはあらかじめアンプの電源を切っておくこと
接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。

アンプの通電中は出力ターミナルやスピーカーケーブルの心線にさわらないこと
パワーアンプの出力には危険な電圧がかかっています。この電圧に触れると死亡または負傷の原因になる場合があります。

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと
適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。

電源プラグに手が届くよう設置すること
この製品の背面には電源を遮断する電源プラグが付いています。この電源プラグに簡単に手が届くよう設置してください。

⚠注意　この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。

高温になる場所に設置しないこと
直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にろうそくなど裸火を置かないでください。

この製品に付属している電源コードを他の電気用品に使用しないこと
この製品に付属している電源コードはこの製品専用のものです。他の電気用品には絶対に使用しないでください。

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと
本体の故障やお使いになる方がけがをする原因になる場合があります。

アンプには必ず定格インピーダンスに適合するスピーカーを接続すること
インピーダンスが合わないとアンプが故障する原因になります。

目次

はじめに…1
製品がお手元に届いたら…1
①製品が破損していませんか ?…1
②製品の電源電圧は正しく設定されていますか ?…1
③付属品は全てそろっていますか ?…1
< 重要 ! > 安全について…1
GX シリーズの特徴…1
寸法…2
フロントパネルの機能…2
電源スイッチ…2
型番…2
内部冷却用換気スリット…2
ゲインつまみ…3
ラックマウント金具…3
CLIP LED…3
SIG LED…3
PWR LED…3
もう 1 つの「チャンネル名」…3
リアパネルの機能…4
クロスオーバースイッチ…4
CROSSOVER の位置にする…4
FULL RANGE の位置にする…4
排気用スリット…4
リアサポート金具…4
入力の接続…4
バランス XLR 入力…4
バランスφ 6.3TRS 入力…4
アンバランスφ 6.3TS 入力…4
アンバランス RCA ピン入力…4
AC ブレーカーリセットスイッチ…5
製造番号と電源電圧…5
スピーカー接続…5
5 ウェイバインディングポスト…5
φ 6.3TS プラグ…5
SpeaKon ケーブル…5
AC ソケット…5
入力の接続…6
XLR…6
φ 6.3TRS…6
RCA ピン…6
スピーカーの接続…6
先バラ…6
バナナプラグ…6
SpeaKon…6
φ 6.3TS…6
システム接続例…6
複数本のスピーカーを接続する…6
サブウーファーとフルレンジボックス…7
ハウスとモニター両方のスピーカーにパワーを供給する…7
ステレオ音声の再生…7
両方のチャンネルで同じ信号を再生する…7
トラブルシューティング…8
電源が入らない、LED が点灯しない、ファンが回転しない…8
アンプの音量が下がる…8
チャンネル 1 が低い音しか再生しない…8
チャンネル 2 の入力が機能していないように見える…8
アンプ音が歪む…8
音がでない、PWR LED だけが点灯、緑や赤の LED は消えたまま…8
音は出ていないが緑色の LED が反応している…8
音は出ていないが赤い LED が点灯している…8
ハムノイズが聞こえる…8
アンプが修理を必要とする場合…9
仕様…10
GX5…10
GX3…10
保証…11
サービス・お問い合せ窓口…11

はじめに

このたびは QSC 製パワーアンプをご購入いただき、ありがとうございます。GX シリーズはさまざまな現場に可能な限り最高の結果を出すためハードワークに耐え、コストパフォーマンスに優れた製品です。ほとんどの現場ではプラグ & プレイ感覚で簡単に使える製品です。

GX シリーズのもてる実力を最大限に発揮させるため、お使いになる方や機器の安全のために、この製品をお使いになる前に必ず本書をすべてお読みください。本書に書かれた警告や注意にしたがって、この製品を安全に設置、使用してください。

本書は GX シリーズの取扱方法を説明するためのものです。音響システムや機器に関する基本的な技術や基礎知識については、特に説明しておりません。市販の専門書などをご参照ください。

製品がお手元に届いたら

GX シリーズがお手元に届いたら、すぐに下記の点をご確認ください。

①製品が破損していませんか？

GX シリーズは工場出荷の際、輸送中の衝撃に耐えられるよう梱包されています。製品が届いたらすぐに梱包を解き、製品本体が破損していないかご確認ください。破損していた場合は、ただちにこの製品をお求めの販売代理店にご連絡ください。その際、輸送業者の検査に必要なため外箱や梱包材を全て保管しておいてください。

②製品の電源電圧は正しく設定されていますか？

この製品の電源電圧は、リアパネルの製造番号ラベルに表示されています。この製品に電源を接続する前に、使用する場所の電源に適合していることをご確認ください。適合しない場合は、この製品をお求めの販売代理店にご連絡ください。

③付属品は全てそろっていますか？

箱の中には下記のものが入っています。

- GX シリーズ本体
- 取扱説明書
- 電源コード
- 保証書

不足しているものがございましたら、ただちにこの製品をお求めの販売代理店にご連絡ください。

< 重要！> 安全について

QSC の製品は安全にお使いいただけるよう設計されており、世界中のさまざまな安全基準に準拠しています。しかしこの製品の内部には危険な電圧や電力がかかっています。この製品は、本書でご説明する警告や注意にしたがって安全にお使いください。本書の最初に、安全に関する警告と注意をご紹介しています。この製品をお使いになる前に必ずよくお読みになり、この内容を守ってください。

GX シリーズの特徴

- 最もよく使われているスピーカーにマッチする出力を提供します。
- 4 Ωと 8 Ωのスピーカーを接続したとき、実際のヘッドルームが最大になるよう最適化されています。
- どんなソース機器でも接続できるよう、入力には XLR、φ 6.3TRS、RCA ピンジャックを装備しています。
- 出力には、NL4 とφ 6.3TS プラグのどちらでも接続できる SpeaKon combo と、5 ウェイバインディングポストを装備し、あらゆるスピーカーに対応します。
- 奥行きはわずか 257mm で、小型のコストパフォーマンスに優れたラックにフィットします。
- 12.5kg 程度の軽さを実現しました。
- 正確な設定と感度調整のため、ゲインつまみには 21 ステップのクリックを付けました。
- GX シリーズ専用プロテクト回路 GuardRail が、内部の温度上昇やオーバードライブで本番を中断しないよう、自動的にアンプとスピーカーを保護します。
- フロントパネルの LED で電源、信号、クリップの状態を表示します。
- クロスオーバーを内蔵しているので、サブウーファーを追加することもできます。

定格出力

モデル	8 Ω	4 Ω	2 Ω※
GX3	300W	425W	200W
GX5	500W	700W	350W
GX7	725W	1000W	600W

※ハイパワーで使用するとき、2 Ω駆動は推奨しません。プロテクトリミッターが機能しないよう、低いレベルでお使いください。

フロントパネルの機能

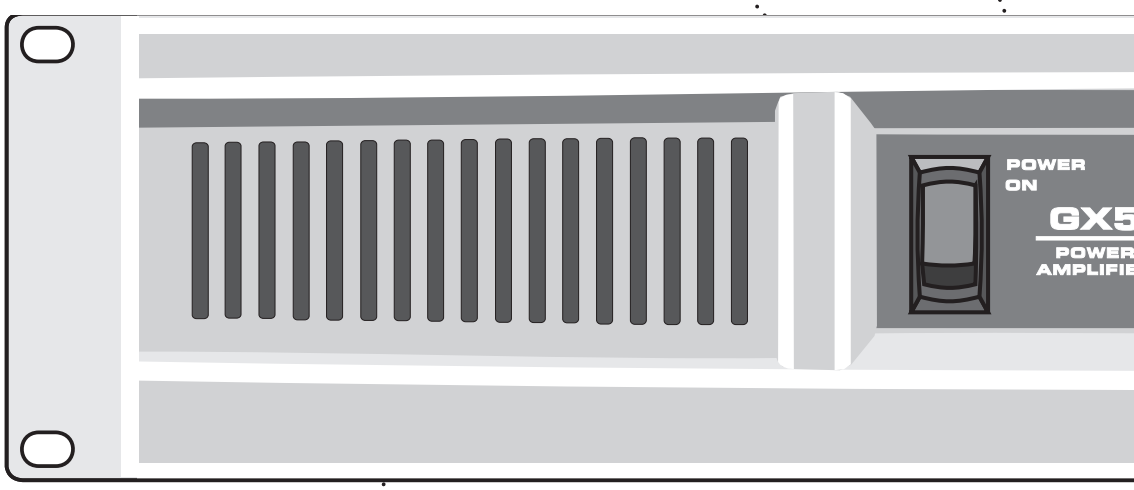
電源スイッチ

ロッカースイッチの上側を押すとアンプに電源が入ります。すぐに青い **PWR LED** が点灯します。電源を入れてから 1 ～ 2 秒間、アンプが起動サイクルを完了するまで赤い **CLIP LED** が点灯します。どちらの LED も点灯しない場合は、リアパネルで電源コードと **AC ブレーカー**の状態をご確認ください。

参照 (P3, P5)
「CLIP LED」「SIGNAL LED」「PWR LED」「電源ソケット」「AC ブレーカー」

型番

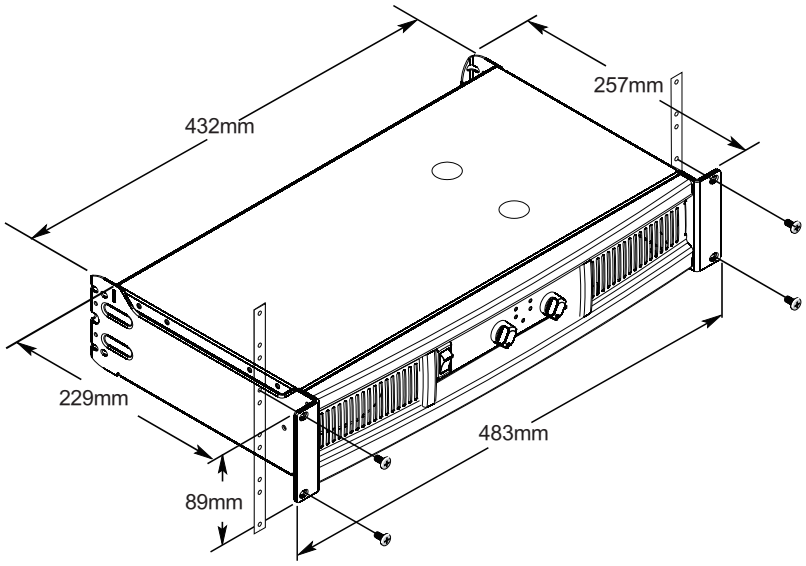
GX3 と **GX5** の出力は「仕様」(P10) でご確認ください。



内部冷却用換気スリット

内部の冷却ファンによって、左側の換気スリットから空気を吸い込み、右側の換気スリットから排出します。スリットは常に清潔にしてください。冷却ファンの回転速度はアンプの動作が激しくなるほど上がります 。

寸法



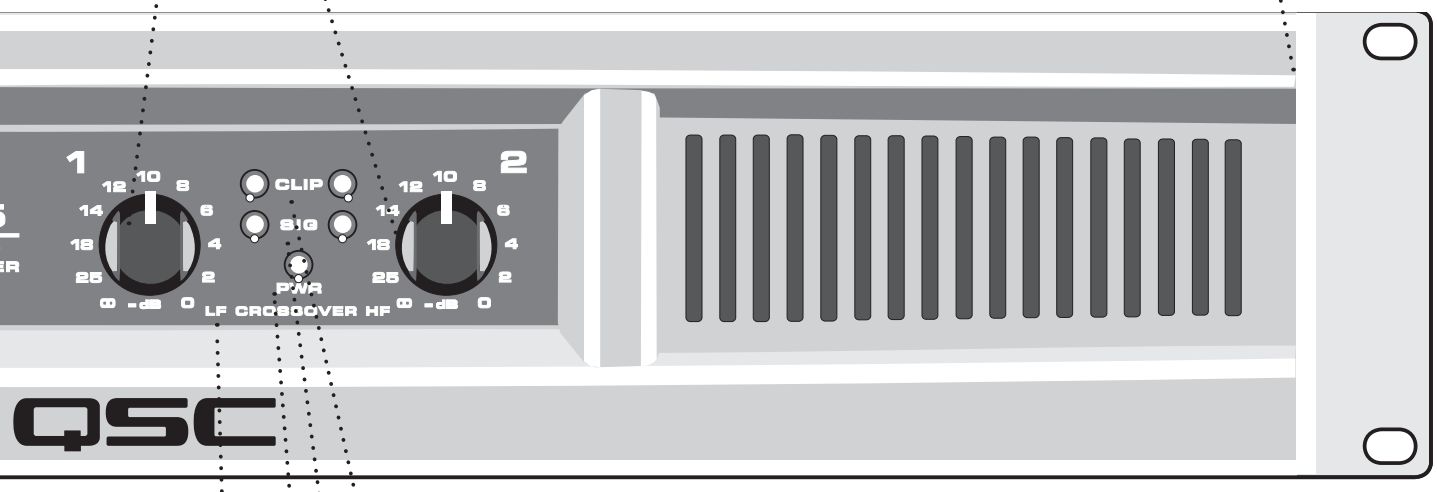
ゲインつまみ

周囲の数値は dB で減衰 (アッテネート) 量を表しています。通常はつまみの位置を、減衰量が **10dB 以下**になるよう設定してください。このつまみを減衰量が **10dB を超える**位置にすると、アンプがフルパワーに到達する前にソースがオーバーロードする場合があります。

ラックマウント金具

このアンプは EIA 規格 19 インチラック 2U 分のスペースにマウントすることができます。ラックのアングルに 6mm のネジで取り付けます。この製品を持ち運ぶ場合は損傷しないよう、リアパネル側もラックに固定してください。

参照 **(P4)**「リアサポート金具」



CLIP LED

アンプがオーバードライブすると赤く点滅します。アンプを極度にオーバードライブさせると、オーバードライブによる歪みを減らすために、内部のゲインが下がります。信号レベルが正常な範囲になると、ゲインもまた正常に戻ります。この赤い LED が点灯したままになったときは、「トラブルシューティング」(P8) をごらんください。

SIG LED

この LED はレベルが低い信号 (-35dB) が入ってくると緑色に点滅し始め、信号レベルが大きくなるにつれて点灯したままになります。

PWR LED

電源スイッチを入れてアンプが電力を受けると、この青い PWR(電源) LED が点灯します。アンプは 2 秒以内に使えるようになります。

もう 1 つの「チャンネル名」

リアパネルのクロスオーバースイッチを **CROSSOVER** の位置にすると「**LF**」とマーキングされたチャンネル 1 のゲインつまみでサブウーファーを、「**HF**」とマーキングされたチャンネル 2 のゲインつまみでフルレンジスピーカーを調整することになります。

参照 **(P4)**「クロスオーバースイッチ」

リアパネルの機能

クロスオーバースイッチ

CROSSOVER の位置にする

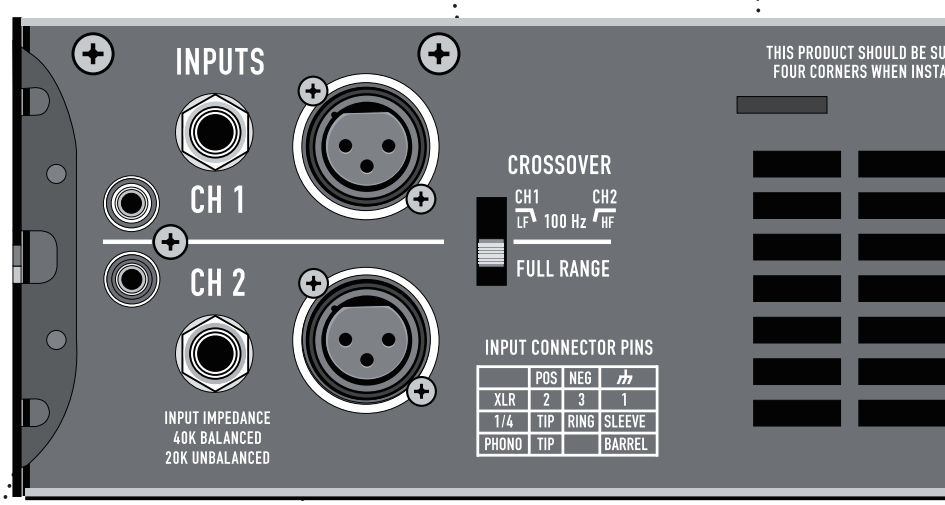
アンプがクロスオーバーモードに切り替わります。このモードにすると、サブウーファーとフルレンジスピーカーをドライブするため、入力信号が分割されます。チャンネル 1 がサブウーファー用で、20 ～ 100Hz の低い周波数を受け持ちます。チャンネル 2 がフルレンジスピーカー用で、100Hz ～ 20kHz の帯域を受け持ちます。クロスオーバーモードのときは、入力信号をチャンネル 1 にだけ接続してください。フルレンジとサブウーファーのバランスは、2 つのゲインつまみで調整してください。

FULL RANGE の位置にする

アンプがフルレンジモードに切り替わります。このモードでは、アンプは通常通り 2 チャンネルドライブになり、両方の入力が使える状態になります。クロスオーバーはバイパスされます。

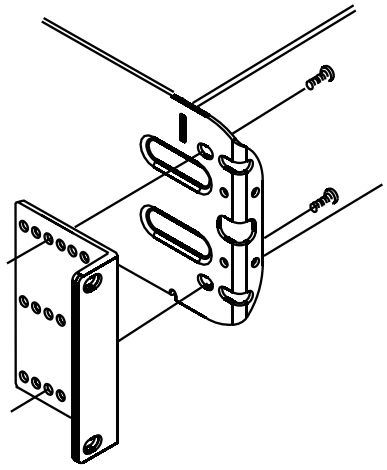
排気用スリット

スリットは常に清潔にしてください。このアンプは背面が開いたラックにマウントしてください。



リアサポート金具

リアサポート金具は、リアパネルのコネクターに接続したプラグを保護し、ラック内でアンプを支えるために設計されたものです。リアサポートキットは別売アクセサリーとしてご用意しています。くわしくはこの製品をお求めの販売代理店にお問い合わせください。

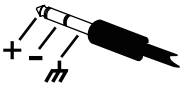


入力の接続

バランス XLR 入力

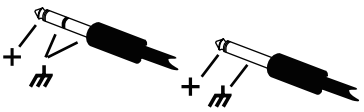
2 番ピンが +、3 番ピンが -、1 番ピンがシールド (グランド) です。接続ケーブルの長さや抜き差しの頻度に関わらず、このコネクターをお奨めします。各チャンネルの XLR と TRS ジャックは、内部で接続されているので、使っていないコネクターで他のチャンネルやアンプに信号を渡すことができます。

バランスφ 6.3TRS 入力



チップが +、リングが -、スリーブがシールド (グランド) です。頻繁に差し替えるときに便利です。

アンバランスφ 6.3TS 入力



短いケーブルで接続するときに使います。チップが +、スリーブがシールド (グランド) です。

アンバランス RCA ピン入力

チップが +、バレルがシールド (グランド) です。近くにある機器と一時的に接続するとき便利です。

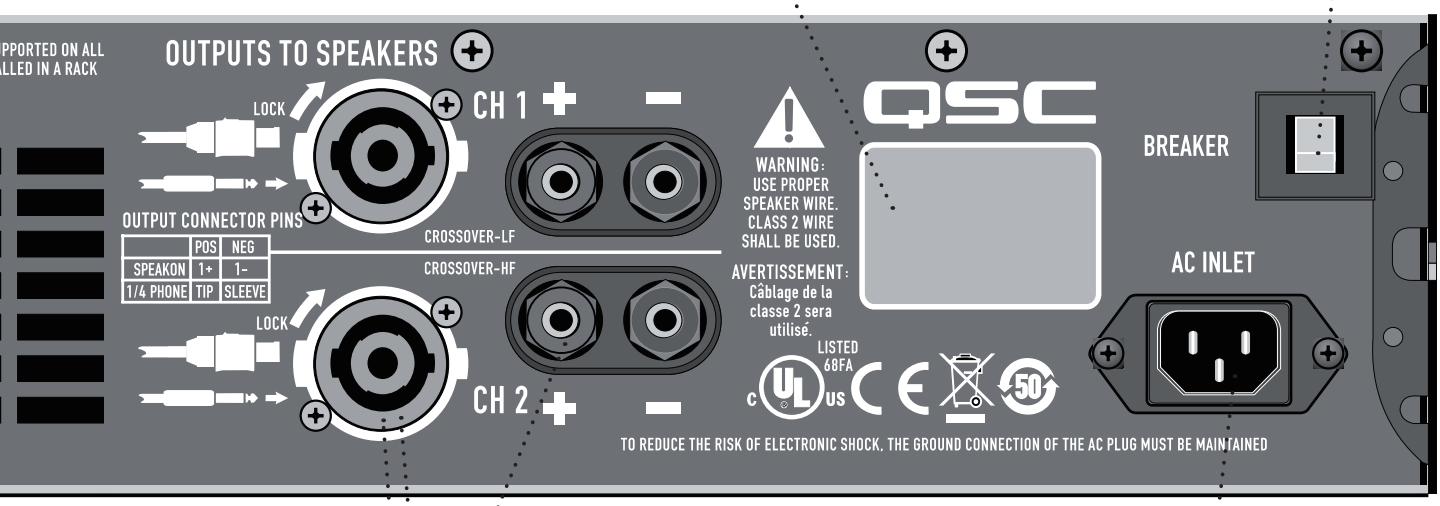
注：この入力ジャックを使うとき、TRS や XLR 入力コネクターには何も接続しないでください。

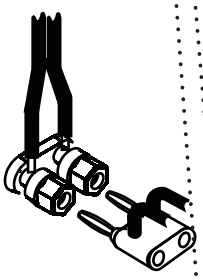
製造番号と電源電圧

この製造番号ラベルには、電源電圧と出力パワーが表示されています。製造番号を控え、安全な場所に保管してください 。

AC ブレーカーリセットスイッチ

アンプが長時間バーストした後でアンプがシャットダウンしたら、電源スイッチを OFF にしてこの AC ブレーカーリセットスイッチをご確認ください。30 秒ほどの冷却期間が終わると、このスイッチは突き出してきます。必ず電源スイッチを OFF にしてから、このスイッチを押し込んでください。それから電源スイッチを ON にすると、アンプは正常に機能するようになります。頻繁に突き出した状態になる場合は修理が必要です。この製品をお求めの販売代理店に修理をお申し付けください。

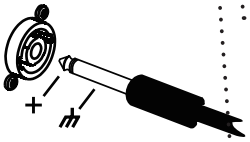




スピーカー接続

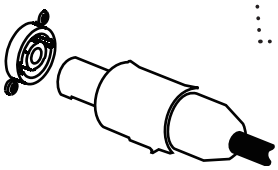
5 ウェイバインディングポスト

バナナプラグを接続することができます。側面の穴にはむき出しの心線やターミナルを差し込むことができます。



φ 6.3TS プラグ

SpeaKon combo の中心に、φ 6.3TS プラグを接続することができます。スピーカーケーブルは必ず丈夫なものをお使いください 。

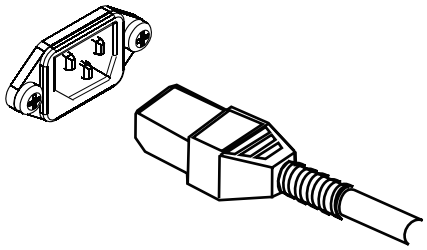


SpeaKon ケーブル

コネクターを挿入して、かちっと音がするまで回してください。プラグを外すときは、ラッチを押すかロックリングを回します。

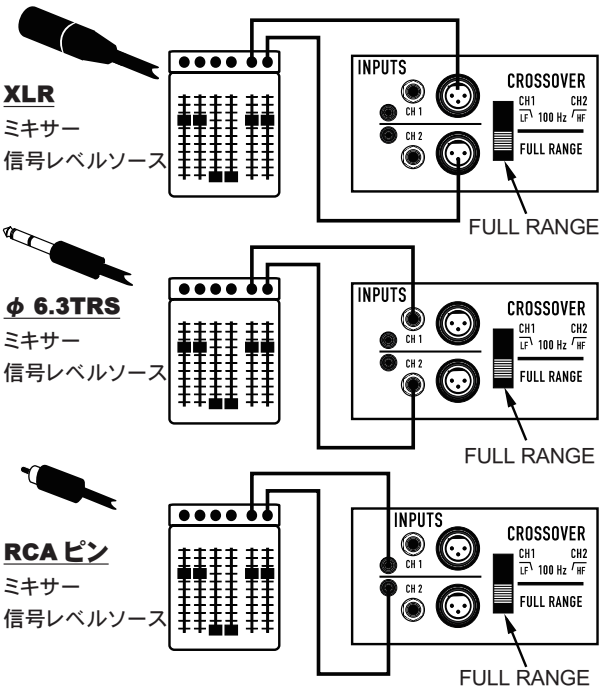
AC ソケット

必ず付属の電源コードを接続してください。

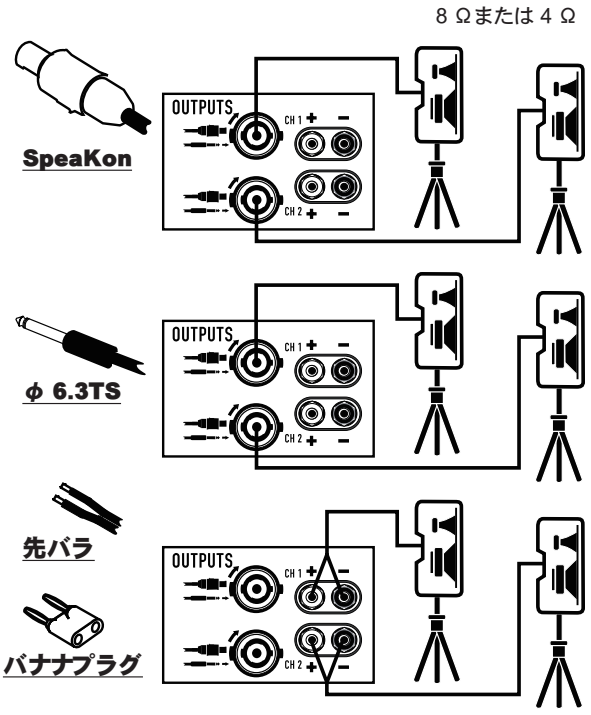


システム接続例

入力の接続

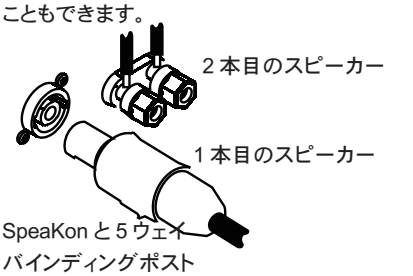


スピーカーの接続

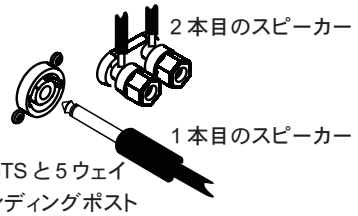


複数本のスピーカーを接続する

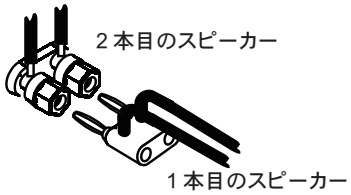
スピーカーを２本、アンプの１チャネルに接続するには、１本目は SpeaKon combo、２本目はバナナプラグまたは心線を直接５ウェイバインディングポストに接続します。１本目をバナナプラグ、２本目を心線のまま５ウェイバインディングポストに接続することもできます。



SpeaKon と５ウェイバインディングポスト

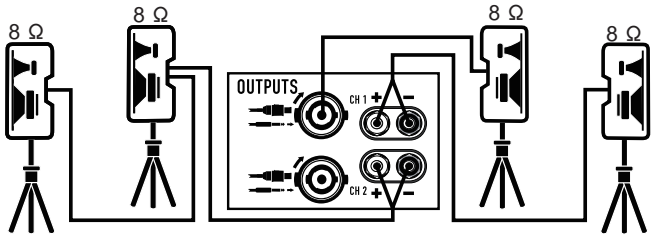


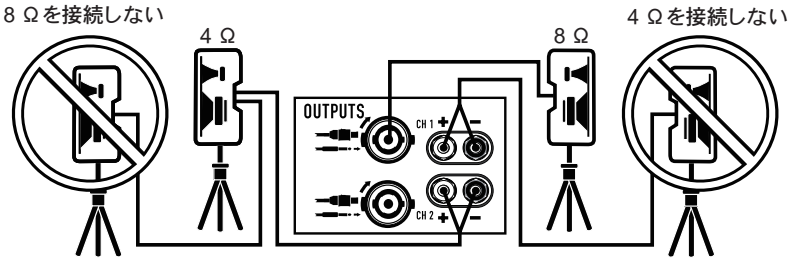
φ 6.3TS と５ウェイバインディングポスト

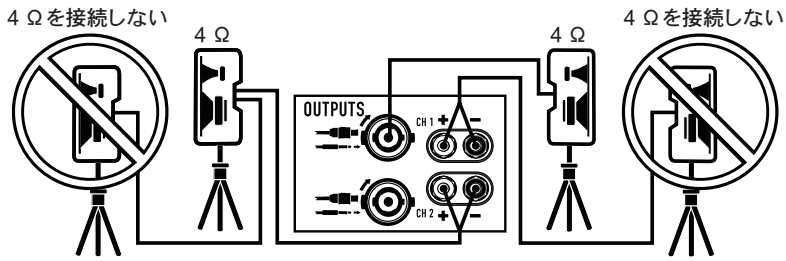


バナナプラグと５ウェイバインディングポスト

各チャネルには４Ωのスピーカーを１本または８Ωのスピーカーを２本接続することができます。スピーカーのパススルーを使う場合は、3本以上接続しないでください。

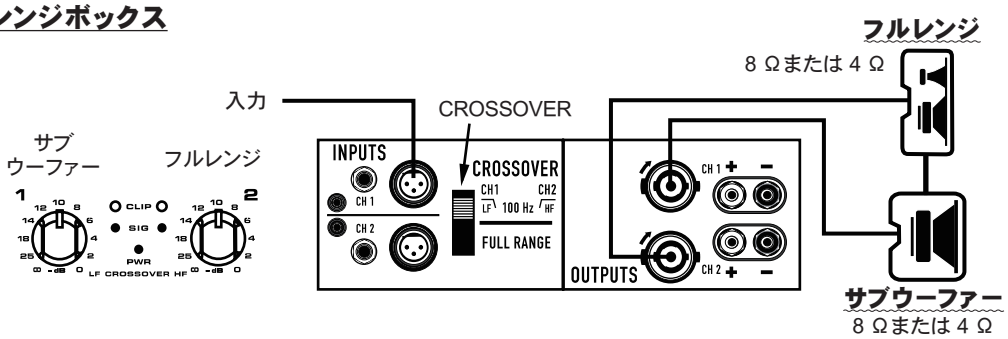






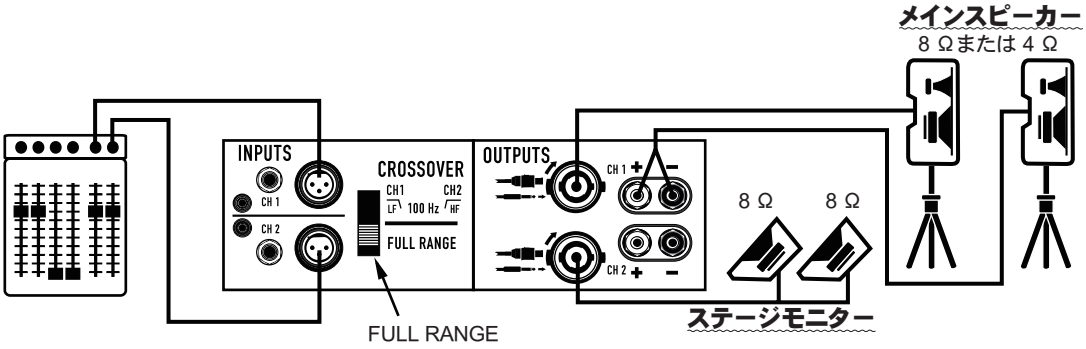
サブウーファーとフルレンジボックス

クロスオーバースイッチを CROSSOVER の位置にしてください。チャンネル 1 の入力にソースを 1 つ接続します。サブウーファーをチャンネル 1 の出力に、フルレンジスピーカーをチャンネル 2 に接続してください。



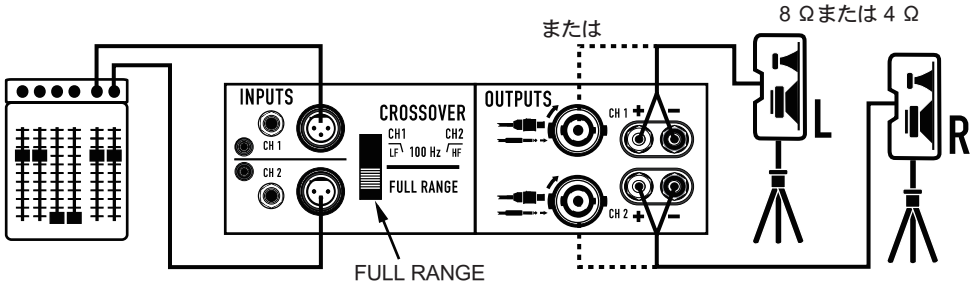
ハウスとモニター両方のスピーカーにパワーを供給する

クロスオーバースイッチは FULL RANGE です。ミキサーでメインとモニターをミックスし、アンプのチャンネル 1 と 2 に接続します。チャンネル 1 の出力には、メインスピーカー、チャンネル 2 の出力にはモニタースピーカーを各 2 本接続してください 。



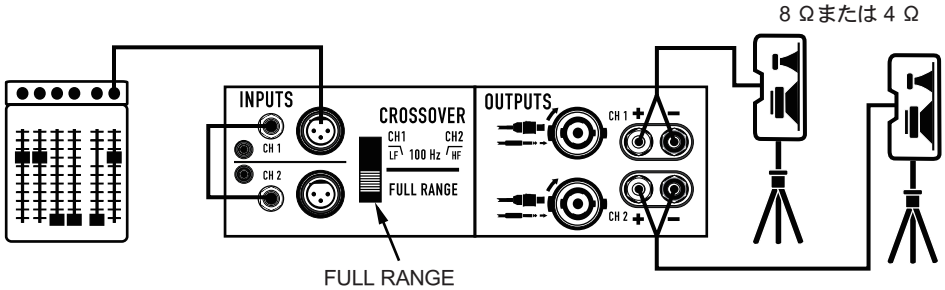
ステレオ音声の再生

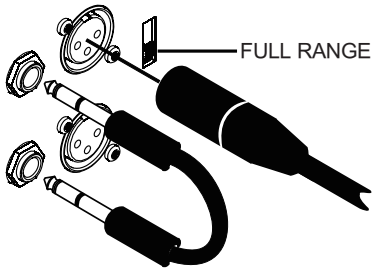
クロスオーバースイッチを FULL RANGE の位置にします。 L/R 信号ソースを 1 と 2 に、XLR、TRS、RCA ピンジャックのいずれかで接続します。スピーカーは NL4、φ 6.3TS、バナナジャック、あるいはケーブルを先バラのまま、各チャンネルの出力に接続してください。



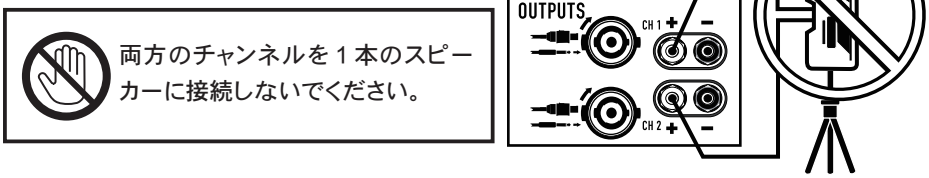
両方のチャンネルで同じ信号を再生する

クロスオーバースイッチは FULL RANGE です。チャンネル 1 の XLR 入力にソースを 1 つ接続し、チャンネル 1 と 2 の TRS ジャック同士を短いケーブルで接続します。各チャネルにスピーカーを接続してください。各スピーカーのゲインはフロントパネルで個別に調整してください。





チャンネル 1 と 2 の間を短いRTS ケーブルで接続



トラブルシューティング

電源が入らない、LED が点灯しない、ファンが回転しない

★電源コードがしっかり接続されていること、電源を供給しているコンセントに接続してあることをご確認ください。

★照明器具など別の機器を接続して、コンセントに電源が来ていることをご確認ください。

★リアパネルの AC ブレーカーを押してください。

★ AC ブレーカーリセットスイッチを頻繁に押さなければならない場合は、修理が必要です。この製品をお求めの販売代理店に修理をお申し付けください。

アンプの音量が下がる

★アンプを極端に激しく動作させると、保護回路 GuardRail が異常温度によるミュートを機能させないよう、自動的に音量を下げます。冷却ファンは最高速で回転します。この場合、入力信号のレベルを下げればアンプは 1 ～ 2 分以内に標準的なゲインに復帰します。

★アンプが熱くなっていても冷却ファンが回っていないときは、修理が必要です。この製品をお求めの販売代理店に修理をお申し付けください。

チャンネル 1 が低い音しか再生しない

★リアパネルのクロスオーバースイッチをご確認ください。各チャンネルを個別に使用する場合は、FULL RANGE の位置にしてください。

チャンネル 2 の入力が機能していないように見える

★リアパネルのクロスオーバースイッチをご確認ください。各チャンネルを個別に使用する場合は、FULL RANGE の位置にしてください 。

アンプ音が歪む

★赤い CLIP LED が点滅している場合、アンプはその仕様を越えたパワーでドライブしています。電気回路が極端にオーバードライブしないよう、保護回路 GuardRail がいくぶん音量を下げますが、入力信号がさらに増大するとリミッターがオーバードライブして歪みも増します。

★スピーカーやスピーカーケーブルがショートまたは破損している場合、ふだんより低いレベルで歪みを発生し、赤い CLIP LED を点滅させます。スピーカーやケーブルを交換すると確認できるでしょう。

★各チャンネルに複数本のスピーカーを接続していて、その合算インピーダンスが 4 Ω未満になっていると、アンプはより簡単にオーバーロードして加熱します。インピーダンスが 4 Ω以上になるよう接続してください。

★赤い CLIP LED を点滅させずに歪んでいる場合、その歪みはアンプ以外のポイントで発生しています。スピーカーが破損しているか、入力信号が歪んでいるかのどちらかでしょう。

★スピーカーを交換してテストし、問題がないかどうかご確認ください 。

★アンプのゲインつまみが低すぎる位置になっていて入力ソースがオーバードライブしているときは、歪みがなくなるまでソースの音量を下げ、望ましいレベルになるまでアンプのゲインを上げてください。一般にアンプのゲインつまみは時計回りいっぱいに回しきったフルの一付近にしておくことが望ましいとされています。

★すべての入力接続をご確認ください。1 つのチャンネルに複数の異なるソースを接続しないでください。ソースをミックスする場合はミキサーをお使いください。

音がでない、PWR LED だけが点灯、緑や赤の LED は消えたまま

★ゲインつまみがある程度高いレベルに設定されていることをご確認ください。入力ケーブルが両端できちんと差し込まれていることをご確認ください。

★φ 6.3TS プラグが付いたスピーカーケーブルを入力ケーブルと取り違えていないかご確認ください。ソースが機能していることをご確認ください。

★必要に応じて別のソースに接続し直してみるか、使用しているソースを別のアンプに接続してテストしてください 。

音は出ていないが緑色の LED が反応している

★緑色の LED はアンプが信号を増幅していることを表示しているので、この場合はスピーカーを接続すれば音が聞こえるはずです。両端でスピーカーの接続を確認し、必要に応じて別のスピーカーを接続してテストしてください。

音は出ていないが赤い LED が点灯している

★このアンプは電源を ON/OFF するとき、ノイズを再生しないようミュートがかかります。アンプの内部がかなり高温になると、冷却されるまでミュートがかかったままです。冷却ファンが最高速で回転し、1 分程度で音が出るようになります。

★アンプが熱くなっていもファンが回っていない場合は、修理が必要です。この製品をお求めの販売代理店に修理をお申し付けください。

ハムノイズが聞こえる

★長いケーブルを使用する場合は、バランスの XLR または φ 6.3TRS ケーブルをお使いください。

★低いハムはテレビケーブルなどを接続することで発生します。これはテレビのケーブルがグランドに悪影響を与えることがあるためです。このノイズを減らすには、テレビケーブル用アイソレーターを入れてください。

★ハムはまた接続の種類によって、シグナルチェーンの上流に当たるポイントで発生する場合があります。すべての機

器を同じラインの電源に接続すると、問題解決に役立つことがよくあります。ただしこの場合、全体の消費電力がその電源の容量を超えないようにしてください 。

★ハムを軽減する最後の手段として、アンプのゲインを下げてソースのゲインを補正するように上げる方法もありますが、このときソースがオーバードライブして歪むことがないようご注意ください。この方法でハムが軽減されない場合、発生源はソースです。

アンプが修理を必要とする場合

★下記の状態は安全ではない可能性があります。この製品を使用する前に修理が必要です。下記の状態を確認されたら、まず電源コードをコンセントから抜き、安全な状態にしてください。

・アンプから煙が出ている、またはアンプがこげくさい
・アンプの外観にひどいへこみがある、アンプ自体が変形している
・アンプに液体をこぼした跡がある
・アンプの内部で部品がからからいう
・電源を入れたときに AC ブレーカーが落ちる
・アンプを落下した

仕様

GX7

定格出力 (ステレオ , 1kHz, クリップ 0.1%)		725W × 2(8 Ω)　800W × 2(4 Ω)
(ステレオ , 1kHz, クリップ 1.0%)		1000W × 2(2 Ω)
歪率 (定格出力 -1dB, 20Hz ～ 20kHz)		0.05% 未満 (8 Ω)　0.1% 未満 (4 Ω)
周波数特性		20Hz ～ 20kHz(+0, -1dB)
S/N(20Hz ～ 20kHz)		100dB
ダイナミックヘッドルーム (4 Ω)		2dB
ダンピングファクター		100
出力回路		H 級 (2 ステップ)
入力感度		1.2Vrms
電圧ゲイン (8 Ω)		36.1dB
入力インピーダンス		20k Ω以上 (バランス , アンバランスとも)
最大入力レベル		+24dB(16Vrms)
操作部	前面パネル	電源スイッチ　ゲインつまみ
	背面パネル	フルレンジ / クロスオーバー (100Hz) 切替
		サーキットブレーカー
インジケーター	前面パネル	電源 (青)　シグナル (緑)　クリップ (赤)
入力コネクター		XLR3-31 相当 / φ 6.3TRS ジャック /RCA ピンジャック
出力コネクター		Neutrik SpeaKon combo/5 ウェイバインディングポスト
冷却システム		換気方向 : 前面左→前面右　　速度可変ファン× 1
保護回路		ショートサーキット , オープンサーキット , 異常温度 , 無線周波 ,
		DC 異常に対する負荷保護
AC 電源		公称 100VAC　50/60Hz　11.5A
寸法・重量		483W × 89H × 257Dmm　7.7kg

GX5

定格出力 (ステレオ , 1kHz, クリップ 0.1%)		500W × 2(8 Ω)　700W × 2(4 Ω)
(ステレオ , 1kHz, クリップ 1.0%)		350W × 2(2 Ω)
歪率 (定格出力 -1dB, 20Hz ～ 20kHz)		0.05% 未満 (8 Ω)　0.1% 未満 (4 Ω)
周波数特性		20Hz ～ 20kHz(+0, -1dB)
S/N(20Hz ～ 20kHz)		100dB
ダイナミックヘッドルーム (4 Ω)		2dB
ダンピングファクター		100
出力回路		H 級 (2 ステップ)
入力感度		1.2Vrms
電圧ゲイン (8 Ω)		34.4dB
入力インピーダンス		20k Ω以上 (バランス , アンバランスとも)
最大入力レベル		+24dB(16Vrms)
操作部	前面パネル	電源スイッチ　ゲインつまみ
	背面パネル	フルレンジ / クロスオーバー (100Hz) 切替
		サーキットブレーカー
インジケーター	前面パネル	電源 (青)　シグナル (緑)　クリップ (赤)
入力コネクター		XLR3-31 相当 / φ 6.3TRS ジャック /RCA ピンジャック
出力コネクター		Neutrik SpeaKon combo/5 ウェイバインディングポスト
冷却システム		換気方向 : 前面左→前面右　　速度可変ファン× 1
保護回路		ショートサーキット , オープンサーキット , 異常温度 , 無線周波 ,
		DC 異常に対する負荷保護
AC 電源		公称 100VAC　50/60Hz　7.5A
寸法・重量		483W × 89H × 257Dmm　12kg

GX3

定格出力 (ステレオ , 1kHz, クリップ 0.1%)		300W × 2(8 Ω)　425W × 2(4 Ω)
(ステレオ , 1kHz, クリップ 1.0%)		200W × 2(2 Ω)
歪率 (定格出力 -1dB, 20Hz ～ 20kHz)		0.05% 未満 (8 Ω)　0.1% 未満 (4 Ω)
周波数特性		20Hz ～ 20kHz(+0, -1dB)
S/N(20Hz ～ 20kHz)		100dB
ダイナミックヘッドルーム (4 Ω)		2dB
ダンピングファクター		100
出力回路		B 級
入力感度		1.2Vrms
電圧ゲイン (8 Ω)		32.2dB
入力インピーダンス		20k Ω以上 (バランス , アンバランスとも)
最大入力レベル		+24dB(16Vrms)
操作部	前面パネル	電源スイッチ　ゲインつまみ (21 クリック)
	背面パネル	フルレンジ / クロスオーバー (100Hz) 切替
		サーキットブレーカー
インジケーター	前面パネル	電源 (青)　シグナル (緑)　クリップ (赤)
入力コネクター		XLR3-31 相当 / φ 6.3TRS ジャック /RCA ピンジャック
出力コネクター		Neutrik SpeaKon Combo/5 ウェイバインディングポスト
冷却システム		換気方向 : 前面左→前面右　　速度可変ファン× 1
保護回路		ショートサーキット , オープンサーキット , 異常温度 , 無線周波 ,
		DC 異常に対する負荷保護
電源		公称 100VAC　50/60Hz　7.5A
寸法・重量		483W × 89H × 257Dmm　11.5kg

製品の使用および外観は、改良のため予告なく変更する場合がございます。

保証

本機の保証はご購入後 1 年間となっております。

正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、あらかじめご了承ください。

- ●お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- ●お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- ●火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- ●本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- ●正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- ●日本国外でご使用中の故障、損傷

サービス・お問い合せ窓口

製品の設置、使用法などのお問い合せ窓口

東京　東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1
CSS ビルディング 3F
☎ 03-3639-7800
FAX 03-3639-7801

大阪　大阪市北区東天満 2-10-24
☎ 06-6357-0160
FAX 06-6357-0170

名古屋　名古屋市東区泉 1-23-30
名古屋パナソニックビル 2F
☎ 052-950-3324
FAX 052-950-3325

福岡　福岡市南区大橋 4-16-18-201
☎ 092-554-6066
FAX 092-554-6064

営業時間　月曜日～金曜日　9:00 ～ 17:30
休業日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

ご質問は電子メールでも承ります。
Mail **info@otk.co.jp**

製品情報は下記の URL でもご紹介しています。
URL **www.otk.co.jp**

サービス・修理窓口

サービスセンター　東京都豊島区高田 1-17-22
中橋商事ビル新館 B1F
☎ 03-5950-0998
FAX 03-5950-0988
Mail repair@otk.co.jp

営業時間　月曜日～金曜日　9:00 ～ 17:30
休業日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期